

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階フロア)

事業所番号	2794300059		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり幸町		
所在地	大阪市浪速区幸町3-7-25		
自己評価作成日	平成30年4月30日	評価結果市町村受理日	平成30年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「環境」という言葉をキーワードに入居者様にとって、職員にとってどうあるべきか・・・について取り組んでいます。全入居者様を全職員で支援するをモットーに定期的に職員異動を行ったり、毎月のシフトにおいて、数名は他階での業務を行うなど、各階専任として固執してしまわないよう工夫をしています。また、ホーム内・外研修やホーム行事にも力を注いでいます。行事やレクリエーション、生活リハビリ等を通じて入居者様が自身の暮らしを自身のペースで自発的に過ごして頂ける為にはどのような援助や工夫が必要かを話し合い、その取り組みの過程を重視する事で職員の成長にも繋がればと思っています。医療面においては内科・精神科・歯科等の訪問診療や訪問看護により、疾患があってもできるだけホームでの生活が維持できる様支援させて頂くと共に、終末期ケアについても出来る限り家庭的な雰囲気の中で、ご家族と一緒に終末期を迎えて頂けるよう支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道頓堀川沿いに立地している事業所であるが地域の夏祭りに参加するなど地域との交流を積極的に取り組む姿勢の事業所である。行事を多く企画して利用者の暮らしに変化と活気を与える努力を行っている。近くの公園での花見、ひな祭り、大阪マラソコースに近いため歩道を占有した浴道応援、秋の行楽、敬老祝い、地域の夏祭り、喫茶ひかりの開催など多彩である。医療支援面にも特徴がある。毎朝3ユニット入居者全員の体調がFAXにて契約医療機関の医師宛に送信され、必要に応じて指示が回答されている。早期発見早期治療を実現する地道な活動である。介護の記録面では「行動実施表」が特徴的である。職員が毎日の振り返りとして気付きやケアに関する意見を記入して計画見直しのデータとして利用されている。人手不足の状態から職員の人数が揃いつつあり「職員研修の充実」を目標にした取組が行われている。介護サービスの質的向上が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	{「人」としての想いを大切にし互いに信頼しあい笑顔で快適に過ごせる生活の場。}というひかり幸町独自の理念を掲げ、各フロアの目に付く所に設置し、事あるごとに投げかけ、職員への定着を図っている	理念を「人」としての想いを大切にし互いに信頼しあい笑顔で快適に過ごせる生活の場」として職員が心を合わせるようにし、リビングに掲示して確認し、利用者に接している。	各ユニットのリビングに掲示して職員に徹底を図っているが、外部からの訪問者・家族にも分かるように大きなサイズの紙で掲示した方が望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの夏祭り、敬老会、ふれあい喫茶地域の祭り、地藏盆、親睦会など保育所や近隣、町会と交流を図っている。また、4月に隣町の公園でお花見を行い、自町に留まらず徐々にではあるが、つながりを広げている	地域の行事である夏祭りでは準備段階から職員が応援に出て協力しているので、町の実行委員からも労力を当にされているような関係が出来ている。敬老会や地域福祉活動の「ふれあい喫茶」にも利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談等看板やのぼり、チラシでお知らせしている。また、認知症の方に限らず、ホーム見学の希望があれば送迎等の支援を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者および職員の状況、事故報告、行事報告、取り組み等の報告を行い参加者様からの要望や意見を取り入れながらサービス向上に努めている	町会の代表者、地域包括支援センターが参加した会議が定着してきている。2か月に1回の会議には書類提出報告でなく、参加者に集まってもらい顔を合わせて事業所の運営状況報告や地域との関係についての意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のケースワーカーに定期的にケアプランの提出や相談をしたり、社会福祉協議会の各担当者とは連携を図り協力関係を築くよう努めている。また、大阪市のポイント事業にもいち早く参加している	利用者個々の事案について区の担当課や社会福祉協議会の窓口と接触している。行政の窓口とは事業所の運営状況の報告や介護保険に関する照会・問い合わせ等がスムーズに流れるように良好な関係維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は外階段を開閉し、空気や季節感を感じて頂けるようにしているが、立地的に車の往来が激しいため、玄関は安全を優先し家族様からの要望もあり施錠している。職員が見守り、意向に沿える様できる限り支援している	建物がビル街に立地しているために、安全を重視して家族の同意を得て玄関は施錠している。利用者個々の身体状況に応じてケアの方法について身体拘束防止の観点を意識した話し合いを職員で行った上で対応方法を決定している。また家族の同意も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム外研修への参加、ホーム内での勉強会を実施している。また、日頃から気にかかるような発言・対応についてはその場ですぐ忠告・指導をするよう心がけている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外研修において学ぶ機会を持ち各階介護支援専門員は個々の必要性を見極め、関係者と話し合い支援に努めている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をかけ、解りにくい文言や質問等を伺い、納得・理解して頂けるよう説明を行っている。また、改定・解約の際は速やかに通達し、了承を得、改定の際は同意書を頂いている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の機会であったり、日頃から何気ない会話の中で入居者や家族様から伺ったりしている。なかなか言いにくい事などは意見箱も玄関に設置し、運営に反映できる様努めている	家族の訪問の時に本人の体調状態や最近の暮らしぶりや変化の様子について詳しく報告し、家族の要望や意見を聞くように努めている。必要により電話での報告や家族の希望による電子メールを利用した報告にも対応している。ホーム便りを利用して職員手書きの手紙による報告も行っている。	毎月行事の写真を中心にしたホーム便りを発行して家族から喜んでもらっているが、便りのネーミングや内容について工夫を期待したい。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー・ケアマネ・管理者で行う三者会議並びに職員、本部を交えての全体会議各フロア一会議を行い、全員が意見や提案を出し合えるよう働きかけ改善できるものから実行している	職員の人数が揃って来つつあるので、職員研修等によるスキル向上、介護の質の向上に力を入れると同時に、提案制度の導入などやりがいのある職場環境づくりに取り組んでいる。実際、研修の回数が多くなっている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績・勤務状況などの評価を行い、給与アップややりがいに繋げられるよう努めている。また、就業規則の見直しを図ったり職場環境の整備にも力を注いでいる		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会に加え、認知症介護実践者研修をはじめ法人内外の研修に積極的に参加を促すことで、職員一人一人のスキルアップに努めている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉系大学や他の施設、グループ内施設への実地研修会を通じて交流を図り、取り組みや、事例検討、計画書作成など様々な意見交換をしている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てが初体験の生活の中で、ご本人が抱く不安を無理せず少しずつ安心に変えて頂けるよう、目線・座る場所・声の調子等に気を付けながら、当ホームについて説明し納得して頂けるように努める。その上でご本人がここでどういった日々を送りたいかを聞き出しご希望にそえるよう努力している		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は施設に身内を預ける事に罪悪感を感じておられる方もいる。そういった気持ちに配慮し入所前見学時、入所時等に提供できるサービス、施設で実施する行事等の説明を十分に行い、安心してお預け頂けるようにする。「意見・要望は言いにくい」というお気持ちを払拭し、ご要望等はどんどん出して頂けるよう支援している		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受容・共感・傾聴という基本姿勢を保ち、ご本人ご家族が最も必要とされているサービスに関わる情報を提示し、ご本人にとってどれが適しているか共に考え、ご本人が自ら選択・決定できるよう支援している		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り、ご本人が介護されればなしの状態はさける。非言語的な情報発信を見逃すことなくアイコンタクト、表情、些細な手足の動き等による意思表示をしっかりと捕らえサービスを提供させて頂いている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で実施する行事にご家族も参加して頂き、ご家族・ご本人の絆強化、施設へのご理解強化ひいてはご家族・施設双方でご本人を支えているという関係意識の構築に努め協力し合って、より良いご本人支援ができるよう努めている		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が慣れ親しんで来られた物は職員側も大切にしていきたいと思う。施設生活に馴れて来られ、帰宅願望も無くなれば思い出の場所を尋ねるなどその関係を維持でき、訪問することが楽しみとなるような支援をしていくよう努めている	認知症の状態になっても以前の本人の暮らしでの友人・知人やなじみの店や場所とも、関係が継続できるような支援を大切にしている。電話や手紙のやり取り、思い出の場所への訪問、知人の来訪など関係維持の支援に努めている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの個性を大切にし、それぞれの相性も大切にする。そう言った事をしっかり把握した上で、食事時の座席を決めたり利用者様同士の関わり合いや支え合いが自然にできるよう努めている		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に身体上の理由から施設変更された方が、移られた施設の対応に不満があり相談してこられた。新施設へのご家族の思を伝える方法を提案させて頂いたり、最悪施設変更をされる場合の資料を提供させて頂く等退所されてもご本人にとって何が良いかを共に考え支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通の困難な方の思いは可能な限りご家族や、前CMに伺いご希望に沿うようつとめている。又、月1回のカンファレンス時、職員間でご本人を中心にした意見を出合いご本人本位のケアができるよう話し合っている。	日常での本人との関りから職員間で相談して本人の思い(希望や意向)把握して、希望に沿う支援ができる様に努めている。把握が困難な場合は家族に相談したり職員間で話し合い思いに沿った支援の実現に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や前CMから入居前の様子を伺う事でお一人おひとりのこれまで生きて来られた歴史や記念すべき(ご本人が誇りに思っている)出来事、大切な物等を把握しコミュニケーションを図る時の資料にしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直接介助させて頂く介護職員それぞれからそれぞれが感じたことを情報として提供してもらいトータル的にご本人の一日の様子、心身の状態把握、残存能力の把握、維持に努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はCMのみで作るのではない事を介護職にも理解してもらい「行動実施表」記入、振り返り、意見を出してもらう等でCMが気づかないご本人の現状情報を提供してもらっている。介護職・CMが協力し合って現実に即したプラン提供を心掛けている。	「行動実施表」は毎日職員が振り返り作成する。計画担当者は行動実施見てプランの実施状況や課題を把握して計画の見直しに繋げる基礎データとなっている。毎月モニタリングを実施して必要に応じて新たな介護支援計画書を作成し、家族に説明して同意を得ている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄表を初めとする個別記録を職員で共有することで、ご本人にとって今何が必要か、なにをしなければならぬか等、意見交換をし支援計画の見直しに活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば提供する食事の摂取が困難な方には、煮魚の汁を煮凝りにし口当たりを良くする、白粥を嫌がる方にはウナギの垂れを混ぜて提供するなど食事を摂って頂くための工夫をしている。これは一例で合って皆で意見を出し合って柔軟な対応をしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園を借り、利用者全員参加の花見の会を開いた、クリスマスにはボランチアの腹話術の方に来て頂いた、本年中には地域にある出張回転寿司を予定している。又、敬老の日には近隣の保育園から招待され幼い子供との触れ合いを楽しんでおられる。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的実施される訪問診療で健康管理・適切な治療を図って頂いている。担当医師が「？」を持った場合は外部医療機関に紹介される。施設と医療機関との連携で疾病の早期発とより適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者全員の体調状態を毎朝記入してFAXにて主治医宛に送信し、主治医が利用者全員の状態を常時把握している関係にある。主治医とはいつでも相談でき、専門医診療に関する相談もできる体制にある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関から派遣される看護師や訪問看護師との連携を密にし、個々の利用者にとってより良い医療を受けられるよう支援している		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームでの状況を出来るだけ詳しく説明させて頂いている。服薬しているお薬情報、医療機関からの病状紹介等も届けご本人の理解を深めて頂けるよう協力している。退院時には「退院時カンファレンス」を開いて頂き退院後の生活がスムーズに送れるよう支援している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り」については研修会を開く等学びを深め、万々に備えている。主治医・ご家族・職員で終末ケア「看取り」について話し合いの場を持ち尊厳ある看取りができるよう取り組んでいる。	重度化や終末期への対応については入所時に家族に事業所方針を文書にて説明して同意を得ている。重篤の状態に至った場合は主治医の指示に従って家族協力しながら支援する体制が構築されている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミニ研修会を開く等急変・事故発生後の対応の仕方などを学んでいる。又事故発生後には関係フロア職員全員で検証を行うなどし事故再発防止を図っている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については地域との連携を密にし避難場所、避難経路などを確認し合っている。	地域との協力関係は運営推進会議を通じて近隣へお願いしている。水害や地震などを想定した訓練も取り組んで来ている。通報設備・消火設備の整備及び避難経路の確保・安全面の考慮も行われている。	毎年2回の避難訓練の実施を期待する。

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	過去の生活・病歴・性格、また入居されてからの様子を踏まえて、日々の生活の中で関わりを持つように努めている。入居者様と目線を合わせ、声のトーンにも配慮している。	職員は利用者個々の生活歴(仕事・家族・住居・趣味・得意なことなど)を家族からの情報提供で把握すると同時に入居後の本人との関りから得られた人格や性格を考慮に入れながら利用者を敬った姿勢・態度で接していた。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の行動、思いを聴き、対応に努めている。また、意思表示が困難な方に対しては、可能な限り本人の思いが表現できるような声掛けを心掛けている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物に出掛けたり、折り紙、絵を描く等が好きな方には物品の準備をしている。またフロア・居室どちらでも過ごして頂けるように努めている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一回の理美容がある。服装などについては、入居者様のご家族様に相談したり、入居者様の好みを確認するように努めている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備については、主に職員がしている。食事は職員と入居者様、同じテーブルで食べており、配膳、下膳はできる方にはして頂いている。	本人の残存能力に応じた食事作りへの参加(配膳・下膳・食材のカット・盛り付け)を促している。職員と利用者が並んで食事する家庭的な雰囲気のある食事風景となっている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて調理・食器等の工夫をしている。キザミ食、トロミ使用については医師に相談した上で支援している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。一人で出来る方には誘導し、して頂き、出来ない方には職員が歯ブラシ・スポンジでの口腔内の清潔保持に努めている。週一回の歯科往診もあり、医師に相談しより良いケアが出来る様努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがある時は 直ぐに対応し、訴えが無い方に対しては、排泄表の確認や様子を見て声掛け誘導しトイレでの排泄が出来る様努めている。	個人個人の排泄パターン(リズム、頻度や内容など)を記録により把握してタイミングを見計らった声掛け誘導によるトイレでの自立した排泄習慣を目指した支援を行っている。水分取得状態や食事内容との関係も考慮に入れながら排泄コントロールを支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ・ホットタオルを行い、また果物や乳製品を取り入れ、自然排便が出来るよう支援している。週2回の訪問看護師に相談している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入居者様の体調に合わせて変更したり入浴、シャワー浴、足浴を行い、体調悪く入浴出来ない場合は清拭、全更衣にて支援している。一人で入浴できる方には、声かけをし安否確認している。	入浴を週に3回行って清潔保持に努めている。原則として無理強いすることをせず本人の希望に沿った支援を行っている。必要により清拭や足浴・シャワー浴に切り換えて対応している。本人が落ち着いてゆっくりと入浴を楽しんでもらうように努めている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、入居者様の状態に合わせてベッドで休まれるか確認をして休息をして頂いている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員全員が理解できるように個別にファイルしている。また、薬の変更時には介護記録・申し送りを行い入居者様の状態を把握するよう努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方にはカラオケをかけ楽しんで頂き、タバコを吸いに行き気分転換をする等、一人ひとりの生活歴を踏まえて「その人らしい生活」を考え、出来る事は取り入れている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニ・スーパーでの買い物は日常的に行っている。普段、行けないような場所については入居者様に確認をした上で、日時を決め支援している。	近隣の道頓堀川沿いの散歩やコンビニへの買い物を天候と体調を考慮して行っている。花見では地域や家族の協力を得て利用者に楽しんでもらっている。本人が行きたい所へ行けるように努めている。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは、基本的に一括してお預かりしているが、ご本人の希望により、レジでの支払い、受取りなど自己管理している方もいる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月一回、職員からご家族様に「お便り」を送付している。電話については、ご希望があれば、いつでも出来る様に支援している。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整、空気清浄器・加湿器の設置、定期的な換気等を行い、また、季節にちなんだ飾り付け(ひな人形、七夕、お月見、クリスマスツリー等)をして居心地良く、楽しく過ごして頂けるように努めている。	季節の飾りつけや行事の写真を置いて、明るい雰囲気を作ると共に、ユニットの利用者ん状況に応じて、利用者を刺激する掲示や家具の配置に工夫がされている。室温・湿度・騒音・採光状態も適度である。トイレや浴室、部屋の表示も間違いを少なくするように配慮されている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファを用意しておりお好きな所で過ごして頂けるように努めている。テーブルの配置・座席など職員間で相談し入居者様の状態に合わせて変わる事もある。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、慣れ親しんだ物を持ってきて頂いている。また、お好きな花や写真・絵などを飾り付けるなどしている。居室内床等、歩かれる方、車椅子の方共に、十分なスペースを確保し安全にも努めている。	利用者落ち着いて過ごせる様に、在宅生活時代の自分の部屋と違和感が無いような部屋作りのために、家族にお願いして使い慣れた家具や備品を持ち込んで貰うようにしている。レイアウトについても家族に相談している。居室内は清掃が行き届き快適に過ごせる雰囲気となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアには大きめの日めくりカレンダーや絵・写真を貼ったり、居室の表札の文字を大きめにしてわかり易く見て頂けるよう工夫している。		